

三猿文庫印

平市公報

第六十二號

昭和十八年五月十五日

○告示

告示第二七號

昭和十八年度福島縣平商業學校卒業期繰上ノ適用ヲ受クベキ最高學年ノ授業料ニ關スル件左ノ通定ム

昭和十八年四月十六日

平市長 猪 瀬 乙 彦

告示第二八號

昭和十八年福島縣區平市徵兵署左ノ通開設ス

昭和十八年四月二十日

平市長 猪 瀬 乙 彦

告示第二九號

昭和十八年春季清潔法左記ニ依リ施行ス

昭和十八年五月十日

平市公報 第六十二號 昭和十八年五月十五日 (毎月一回十五日發行)

平市長 猪 瀬 乙 彦

施行月日	區名	字名	區名	字名	區名	字名
五月十日 (月曜日)	第二九上	平窪	三〇中	平窪	三一上	平窪
	三二中	鹽	三三下	波	三四下	平窪
	三四幕	ノ内	三四大	室	三四鯨	岡
五月廿六日 (水曜日)	一長橋	町	二研古	鍛冶町	三紺	屋町
	四田	町	五一	町	六二	町
	一四久保	町	一三	南町	一三	南町
	二四舊城	跡	一五胡	摩澤	二三	才樋小路
			二五八	幡小路	二七	北目町
五月廿五日 (火曜日)	七三	町	八四	町	九五	町
	一〇新川	町	一六	北白銀	町	
	一七仲間	町	一八	鎌田	町	
	二〇堤ノ	内	二六	月見	町	
	二二南	白	二八大	町	三五	鐵道官舎

以上田町大通警察署ニ通ズル道路ヲ境界トシ西全部

以上田町大通警察署ニ通ズル道路ヲ境界トシ東部全部

○ 辭 令

三月三十一日

給月俸六拾八圓

トアルハ給月俸六拾貳ノ誤謬ニ付訂正

給月俸六拾八圓

四月二十三日

依願解職

四月三十日

給月俸六拾貳圓

五月五日

依願解職

書記ヲ命ス 月俸六拾圓給與

兵事警防課兵事係兼社寺係勤務ヲ命ス

五月十二日

退職給與金貳百七拾圓給與

掃除巡視

山城嘉十郎

書 記

佐川充宏

書 記

高木武志

書 記

荒川一郎

書 記

佐藤一

書 記

柴崎金三郎

元書記

佐藤一

◎ 彙 報

○ 庶 務

四月中文書收受發送數

四月中諸證明件數

種別	件數	金額
身 分	一〇〇	二〇、〇〇〇
印 鑑	一四四	二八、八〇〇
其 他	一五	三、〇〇〇
計	二五九	五一、八〇〇

種別	件數	金額
無 料	一三	一八
有 料	〇	〇
市役所使用	二八	三五
計	四一	五三

四月中公會堂使用狀況

種別	回数	數目	金額
無 料	〇	〇	〇
有 料	一三	一八	〇
市役所使用	二八	三五	〇
計	四一	五三	〇

公益質屋事業成績 四月分

職業	貸付状況	質物種類	貸付状況
労働者	二	債	二
俸給生活者	二六	家	二六
小工業者	三	装	三
小商人	九七	身	九七
農業者	一〇	其	一〇
漁業者	一	他	一
其、他	三	計	三
計	三六	金	三六
四月以降	一七	四月以降	一七
計	一九	利	一九
		子	
		計	
		口	
		數	
		點	
		數	
		貸付	
		状況	
		辨濟	
		状況	

○教務

第六回日本体操大會平市大會

決戦下ニ於ケル本市第六回体操大會ハ若葉薫ル五月十五日平商業學校々庭ニ舉行、市内十三校八千有餘ノ生徒兒童ハ定刻九時十五分警女校ヲ先頭ニ勇壯ナルラツパ吹奏裡ニ堂々ノ行進ヲ起シ嚴肅ナル入場ヲ終ヘ左ノ順序ニ依リ潑刺タル元氣ヲ以テ日頃鍊成ノ集團美ヲ遺憾ナク發揮、銃後若人ノ

意氣ヲ中外ニ示シ盛況裡ニ正午閉會ス

- 一、開會式
 - 1、入場九、一五
 - 2、敬禮
 - 3、開式宣言
 - 4、國旗掲揚
 - 5、國歌
 - 6、宮城遙拜
 - 7、祈念
 - 8、式辭
 - 9、日本体操大會歌齊唱
 - 10、式終了宣言
 - 11、敬禮
 - 12、退場
- 二、演 技
- 順 序 運 動 參加學校 參加人員 指揮者 時 間
- 1 大日本國民体操 全 員 八〇分 鈴木武雄 一〇、三〇
 - 2 男子中等學校体操 男子中等校 三、〇九 佐川武夫 一〇、〇〇
 - 3 初等科五、六年体操 國民學校 二、七四 吉田正二 一〇、五〇
 - 4 大日本女子青年体操 女子中等校 二、六三 大門セイ 一〇、〇〇
 - 5 大日本厚生体操 全 員 八、〇分 清水幸造 一〇、二〇
- 三、閉會式
- 1、集合
 - 2、敬禮
 - 3、開式宣言
 - 4、講評
 - 5、閉會ノ辭
 - 6、海
 - 行かば齊唱
 - 7、國旗降下
 - 8、萬歲三唱
 - 9、閉式宣言
 - 10、敬禮
 - 11、退場

式 辭

本日茲ニ市内各學校八千有餘ノ兒童生徒ノ參加ニヨリ盛大ナル第六回体操大會ヲ開催致スニ當リ一言御挨拶ヲ申上グル機會ヲ得マシタコトハ私ノ最モ欣快トスル所デアリマス、米英兩國ニ對シ官戰ノ大詔ヲ拜シテヨリ一年六ヶ月大御稜威ノ下忠誠勇武ナル我陸海空軍ノ將兵ハ身命ヲ君國ニ捧ゲテ奮戦力闘赫々タル戦果ヲ收メ北ハアリユーシヤン群島ヨリ西南太平洋ヲ制壓シ更ニ印度洋洲ニ戰果ヲ擴大シ皇國ノ威烈燦トシテ八紘ニ輝キ且リツ、アリマスコトハ洵ニ感激ニ堪ヘナイ所デ皇軍ノ偉勳ニ對シマシテハ欣仰讚歎其ノ勞苦ノ程ニハ唯只心カラ感謝ヲ捧グルノミデアリマス、此ノ大戦果ニヨリ我國ハ昭カニ一大躍進ヲ遂ゲタノデアリマス、併シ乍ラ米英ヲ撃滅

シ大東亞共榮圈ヲ確立シ以テ八紘爲宇ノ大理想ヲ實現スルコトハ其ノ規模極メテ遠大雄渾テアリマスノデ前途ハ定ニ多事多端テアルト覺悟致サネバナリマセン、此ノ未曾有ノ重大時局ヲ突破スル爲ニハ吾等一億皇國民ハ第一線將兵ノ心ヲ心トシテ國內是亦戰場撃テ止マンノ氣魄ヲ以テ益々心身ノ鍊磨ニ努メ國家ノ總力ヲ集結シテ戰爭完遂ニ邁進セネバナラズト堅ク信ズルモノデアリマス、殊ニ青少年ノ心身ヲ鍛鍊シテ皇國興隆ノ根基ニ培フコトハ喫緊ノ要務デアリマシテ本大會開催ノ趣旨モ實ニコレニ存ズルノデアリマス、希クハ參加者一同時局ノ重大性ト負荷ノ大任トニ思フ致シ平素鍊成セラレタル剛健果敢不屈不撓ノ士氣ヲ發揚シテ團體訓練ノ成果ヲ收メ以テ體育報國ノ實ニ資セラレムコトヲ。終リニ本大會ヲ開催スルニ際リ朝日新聞社並ニ各學校職員各位ノ御盡力ニ對シ滿腔ノ敬意ト深甚ナル感謝ノ意ヲ表シ御挨拶ヲ結ブコト、致シマス。

○財務課

自治記念式並ニ納稅功勞者表彰式

自治記念式並ニ本市第六回納稅功勞者表彰式ヲ四月十七日午後一時市公會堂ニ於テ舉行、官衛長、學校長、市會議員、區內會長及納稅組長參列、中川助役開式ヲ宣シ市長ノ自治制發布五十周年記念式典ニ賜リタル勸語捧讀、次テ功勞者ノ表彰、市長ノ式辭、來賓石城地方事務所長、平稅務署長連沼市會議員ノ祝辭、受彰者總代矢吹順作氏ノ答辭終ツテ萬歲三唱嚴肅裡ニ閉式セリ表彰ヲ受ケタル納稅功勞者左ノ如シ

- 五町目下組納稅組長 馬目房次郎
- 立町第一組納稅組長 荒川茂次郎

- 南町第四納稅組長 織田豊太郎
- 南町三ノ組納稅組長 岡田長太郎
- 平新納稅組長 田中宣治
- 仲田組納稅組長 須藤鶴之助
- 第一納稅組長 矢吹重雄
- 新田町納稅組長 岩本重雄
- 古鍛冶町納稅組長 白土正藏
- 醉釜組納稅組長 鈴木忠三
- 十五町目納稅組長 兒山達二郎
- 田町有隣納稅組長 森本盛一
- 二町目三ノ組納稅組長 柏原眞吾
- 四町目下組納稅組長 小野常治
- 紺屋町第六ノ組納稅組長 塙野幸吉
- 南町第五組納稅組長 鈴木重太郎
- 鎌田町納稅組長 猪狩觀德
- 紺屋町一ノ組納稅組長 吉田濱吉
- 共扶會納稅組長 山野邊達
- 榮進會納稅組長 水野壽雄
- 桂進組納稅組長 松崎忠衛
- 七軒組納稅組長 荒川恒次郎
- 六美納稅組長 吉田弘
- 長橋町東部組納稅組長 川崎文治
- 第二十一區第八組納稅組長 佐藤喜内
- 立町一組納稅組長 鈴木四郎
- 四町目組納稅組長 志賀盛
- 平區裁判所員納稅組長 小野榮一

鯨岡組納稅組合長	內田節太郎
幕ノ内組納稅組合長	吉田丈助
草鹿納稅組合長	戸田福之
沖納稅組合長	矢吹長一
笹山組納稅組合長	鎌田務平
杉内組納稅組合長	松本淺治郎
岩間組納稅組合長	石井秀雄
高橋組納稅組合長	太須賀喜代松
八ッ田組納稅組合長	長瀬芳之丞
第四組納稅組合長	根本久光
眞似井前組納稅組合長	薄葉金重
野崎自動車共濟組納稅組合長	野崎喜八郎
第二十八區第三組納稅組合長	松本榮一
百澤商店納稅組合長	百澤易興
平商業學校納稅組合長	服部甲
丸ほん組納稅組合長	佐々木俊男
仲町組納稅組合長	佐藤六三郎
鎌田町納稅組合長	小野寅之助
新川町大正組納稅組合長	山名隆雄
中町納稅組合長	齋藤義策

本日茲ニ自治記念式並ニ本市第六回納稅功勞者表彰式ヲ舉行スルニ當リ來賓各位ノ御貴臨ヲ辱フシ關係者多數ニ御參列トサイマシタコトハ眞ニ欣幸至極ニ存スル所デアリマス

我が國ニ市制、町村制ノ發布ヲ見マシタノハ今日ヨリ五十五年前即チ明治二十一年四月十七日デ此ノ日 明治天皇ニハ特ニ上諭ヲ賜ヒ同二十二年ニ

平市公報 第六十二號 昭和十八年五月十五日 (毎月一回十五日發行)

及ビ愈々實施ト言フ運ビトナツタノデアリマス、又昭和十三年四月十七日ニハ自治制發布五十周年記念式典ヲ舉ゲラレ長クモ 天皇陛下ニ於カセラレテハ御親臨ノ上優渥ナル勅語ヲ賜ヒ自治關係者一同只管聖恩ノ洪大ナルニ恐懼感激シ愈々自治ノ發達伸暢ニ努メ皇運ノ扶翼ニ匪躬ノ節ヲ効サンコトヲ期シタ次第デアリマシテ爾來四月十七日ヲ以テ自治記念日ト定メマシタノモ毎年此ノ日ニ當ツテ慶ヲ偕ニシ自治ノ觀念ヲ涵養シ由テ以テ公司ノ實ヲ舉ゲ聖恩ノ萬分ノ一ニ應ヘマツランコトヲ期セムトスルニ外ナラスノデアリマス。

乃チ地方自治ノ振興ニハ自治關係者ノ熱誠ナル努力ト自治觀念ニ燃ユル市民ノ圓滿ナル協力トヲ甚調トシ更ニ鞏固ナル財政ニ立脚シテ世運ニ順應スベキ諸施設ノ運籌ニ當ルコトガ最モ緊要デアルト信ズルノデアリマスガ幸ニシテ我が平市ハ市制實施後五年十一月月ヲ闕シ此ノ間市民各位ノ深キ理解ト協力トニ依リマシテ諸般ノ施設着々具現セラレ市勢頓ニ發揚シ納稅成績ノ如キモ亦年ト共ニ向上シテ參リマシタコトハ洵ニ同慶ノ至ニ存ズル所デアリマス、今回受彰ノ納稅功勞者組合長ニシテ二十五年以上ノ勤續者四名、二十年以上ノ勤續者三名、十五年以上ノ勤續者十名、一年以上ノ勤續者十一名、五年以上ノ勤續者二十名合計四十八名ノ多數ニ上リ又本市納稅獎勵規程ニ依リ獎勵金ノ交付ヲ受クベキ成績優良ノ組合モ二百十四ヲ算スル實狀ニアリマスコトハ之亦洵ニ慶賀ニ堪ヘザル所ナルト共ニ本市財政ノ運行上甚ダ意ヲ強ウスルニ足ルモノデアリマシテ運籌ノ掌ニ當ラルル各位ノ御努力ニ對シ無限ノ感謝ヲ覺ユル次第デアリマス

今ヤ我が國ハ内諸般ノ体制ヲ整ヘ外世界ノ動向ヲ指導推進セシメテ國家ノ神慮宏謨ニ基ク萬邦共榮ノ世界新秩序ヲ確立スベキ重大時局ニ當面シテ居ルノデアリマス、抑々國內体制其ノモノノ整備要素ハ固ヨリ複雑多岐ニ相違アリマセンガ就中國家行政ノ基礎ヲ爲ス地方自治ノ改善強化ヲ策シ其ノ圓滿ナル運営ニ依リ國民ノ福祉ヲ増進スルコトガ緊要中ノ緊要事デアルト

信ズルモノデアリマス、又今次ノ大東亞戰爭ハ武力經濟力ニ思想ノ問題ヲモ加味セル所謂國家總力戰デアリマシテ究竟スルニ強大ナル經濟力ガ伴ヒマシテコソ始メテ易々トシテ戰勝ヲ獲得シ得ラルベキモノナルコトヲ吾人ハ切ニ訓ヘラレ且ツ體驗シツ、アルノデアリマシテ所謂大東亞共榮圈確立ノ完成ガ必然的ニ長期ニ亘リ其ノ戰費モ益々膨入トナリマスコトハ想像スルマデモナク自明ノ現デアリマス以上經濟力ノ占ムル地位ノ頗ル大ナルコト亦歟々ヲ要セザル所ト存ズルノデアリマス、而シテ斯ク至要ナル經濟力ノ強化充實コソハ國民貯蓄ノ増加、公債ノ消化、消費ノ抑制、生産力ノ擴充租稅政策ノ強化等種々方策モアリマスガ就中最モ健全性アル方途ト目セラレマスノハ租稅デアリマシテ今回特別行爲稅ノ新設並ニ物品稅ノ増額等ノ斷行ヲ見マシタノモ全ク之ガ爲メテアルト信セラレルノデアリマス、觀シ來レバ納稅組合ノ事業ハ戰時財政經濟ノ運営上愈々重要性ガ加ハツテ參ル次第デアリマスルガ故ニ希クハ各位モ亦其ノ使命ヲ對スル自覺ヲ益々鞏化セラレ今後一層ノ御盡瘁ヲ賜ハラムコトヲ是レ此ノ際特ニ聲ヲ大ニシテ切望セザラ得スノデアリマス、我ガ平市ハ市制施行以來時局ノ影響ニ因リ有ラニル困難ヲ伴ヒマシタガ克ク之ガ排除ニ努メ交通土木産業ノ振興教育機關ノ擴充強化防空並ニ保健衛生等社會施設ノ完備ニ最善ノ力ヲ致シ以テ堅實ナル自治ノ發達ヲ期シツ、アル實狀ニアリマス、願ハクハ本日此ノ意義深キ自治記念日ニ當リ更ニ感激ト覺悟トヲ新ニシ各位ト共ニ所期ノ目的達成ニ邁進スベキヲ確約致シ度イト存ジマス、以上所懷ノ一端ヲ披歷シテ式辭ト致シマス

昭和十八年四月十七日

平市長 猪 瀬 乙 彦

○委員會

四月二十八日 工業振興委員會
五月 六日 工業振興委員會

○市常會

一、常務委員會 四月二十三日午後一時ヨリ市會議事堂ニ開キタリ
一、市常會 四月二十五日午後一時ヨリ市公會堂日本間ニ開キタリ

昭和十八年五月十五日

發行所 平市役所

發行人 猪 瀬 乙 彦

印刷者(東福一益)川 崎 文 治

印刷所 常磐每日印刷株式會社

電話 六三〇番

福島縣平市長橋町三五番地